

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900347		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ西船橋		
所在地	船橋市海神町南1-735-1		
自己評価作成日	28年11月5日	評価結果市町村受理日	平成29年1月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成28年11月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在看取りについても職員の研修を行い、本社でも力を入れており最後までミモザで過ごしたいとの希望に答えられるようにしており、諦めない介護を目指しています。  
また、季節感を感じられるよう入口などには彩りの良い花を飾り、外気浴などの時に目でも楽しめるように工夫しています。  
ご利用者様への食事の提供など、メニューは決まっていますが、入居者の好みに合わせ、同じ食材でも盛りつけや味付けの工夫をして提供しており、個々の食事形態も状況に合わせて対応しています。また事業所が第一と考える豊かな感性、心温まるケア、小さな気づきを大切にをモットーに、スタッフ全員気付き力を養う点を研修を通じて学んでいます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人のマイスター制度、資格取得制度や実技スキルアップ研修のほか毎月計画的に30分研修を実施し、研修報告書の提出と管理者によるフィードバックにより、実務に活かすようにする等職員育成に力を入れて取り組んでいる。「豊かな感性を持つ・心温まるケアを提供する・小さな気付きを大切に」との介護理念を掲げ、特に入居者一人ひとりの細かな変化に気付き力を養いケアに生かすことに力を入れ、ケアプランに基づいた一人ひとりの個別ケアに繋げるよう取り組んでいる。地域密着型サービスの意義を踏まえ、今後更に地域との繋がりを多くしていく取組みが望まれる。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	西船橋の理念に基づき、職員にも入社当時から位置づけを行ないサービスを提供しています	「豊かな感性を持つ・心温まるケアを提供する・小さな気付きを大切にする」とのホームの介護理念を実践するため、出勤時に入居者一人ひとりの顔・表情を良く観察し、服装や言動の変化に気付き、その気付きを一日のケアに繋げる事を大切にしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの保育所との交流や、地域への散歩などをして、地域の一員として行動しています	保育園児が定期的にホームに来てお遊戯などの発表会を行っている。ギター・ピアノ・二胡の演奏や毎月生花教室も行っている。散歩時に近隣の方が声を掛けてくれるようになり、リハパンの寄付をして頂いたこともある。	今後、地域社会福祉協議会や学校、町会等と積極的にコンタクトを取る等、更に地域との交流を多くしていくことが望まれる。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近は近隣の方も当ホームのことを知っている方も多く散歩の時声をかけてくださったり、リハパンなどのご寄付を頂いたこともあります		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースで運営推進会議を行い、現在の状況や、利用者様の様子を見ていただき助言等をいただいています	地域包括支援センター・在宅介護支援センター職員と家族の参加を得て、入居者状況・事故や行事報告を議題として2ヶ月に一度開催している。看取り対応や離脱リスク対策、地域との交流など貴重な意見要望を頂いている。	家族や地域の方に参加頂ける行事などを企画したり、議題を工夫し、町会や民生委員など地域の方にも参加頂ける運営推進会議とすることを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ミモザ通信などを地域包括、生活支援課、居宅介護事業所に情報提供をし、協力関係を築いている	ミモザ通信を地域包括や生活支援課に届けて情報発信している。介護保険課と高齢者福祉課担当とはその都度、また、生活支援課担当とは密に連絡を取り合っている。市のグループホーム連絡協議会にも出席している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていません ベッドで休まれている時のみ4点柵をしているかたはありますが、ご家族にご理解をいただいております。基本的に拘束となる行為はしていません	職員研修を実施し、研修報告書で各職員の理解度の把握もしている。特に言葉による抑制について、日々の言葉使いに気をつけるようになった、言葉使いが良くなった等の感想が報告されている。現在緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書を取り交わし、就寝時のみ4点柵を使用している方がいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修なども行い、職員も日々観察を行っております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回御夫婦で後見人を立てる方がおられて手続きなどをスタッフに見てもらったのが良い機会になったと思います		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容等に改訂があった場合には、その都度、ご家族、関係機関に施設側より十分な説明をさせていただいております		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会などを実施いたしており、意見交換の場を設けております	個別の写真入りで、生活状況や身体・精神・生活面等を記したミモザ通信を毎月送付し家族と情報共有し意見や要望を言っていたき易いようにしている。クリスマス会を兼ねた家族会を実施し意見交換の場ともしている。看取り対応、離設と地域の協力体制や地域への周知、訪問看護との連携や外出を多くして欲しい等多くの質問や要望が出されており、運営に反映させるよう検討している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を開催し、業務改善およびサービスの向上に努めております	日常業務の中で、職員からの提案や要望を聞くようにするとともに、毎月のスタッフ会議で業務改善やサービス向上についての意見交換をしている。入浴時間帯の変更、台所用品やレク用品の購入など職員提案を反映させるようにしている。毎月計画的に30分研修を行い全員が報告書を提出し施設長がコメントする等実践に生かすようにしている。また、マイスター制度、資格取得制度や実技スキルアップ研修等職員育成に取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績評価制度に伴い、ひとつの目標に向かって職員全員で取り組んでおります。やりがいも感じています		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内のスキルアップ研修や社外の研修に参加する機会を設けています		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市内のGH連絡会やGH連絡会主催の研修に参加しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前にはご本人を始め、ご家族にも詳しくお話を聞かせていただき、関係作りに努めております</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から引き続き、ご家族の抱えている不安をホームでのサービスを利用することですこしでも軽くできるよう努めております</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームで出来ることはできる限り対応させていただいています</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者本位ということを忘れず介護させていただいています。 また、コミュニケーションを多く取り、信頼関係を深めるようにしています</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族とは密に連絡を取り合い、コミュニケーションを図っています。 ご利用者の些細な変化も随時報告させていただいております</p>		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>施設でのイベントなどチラシや招待状を郵送などしてお知らせしています</p>	<p>元の近所の方や昔の仲間や友人が訪ねて来る。家族と教会や墓参、大神宮や馴染みの美容院、食事や買物に出掛ける。電話を取り次いだり携帯を持っている方もおり、関係が途切れないよう支援するようにしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>なるべく利用者が参加しやすいレクリエーションや集団体操などを実施し、利用者の孤立防止に努めております</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了になった方でも、何か困ったときなどはいつでもご相談してくださいとの声掛けはしています		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくご本人の望みを聴いて、できるだけ意向を反映できるように努めたいと思っております。 意思が話せない方などは表情を見て判断するように心がけております	コミュニケーションをたくさんとるようにし、入居者の表情をみながら、何が好きで何をつぶやいたかなどの小さな気づきを情報として職員間で共有しケアしている。入居者に関する共有したいことは具体的な対応などをメモに記入して伝え、本人の反応を確認している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人家族、担当ケアマネからの情報収集しており、入居後もご本人の話などからも把握できるように努めています		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日のペースを把握し、更にその日の変化を見逃さないよう日々の状態を把握できるように努めております		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを実施し、更に現状の様子から計画作成担当者を中心にスタッフとケアの在り方について検討、ご家族の承認を得て介護計画としています	業務日報ファイルにケアプランとケース記録を入れることで、スタッフがプランを目にする機会は多くなっている。スタッフミーティングでは全職員から意見を聞き、計画作成者が集約して3か月ごとのモニタリングを行っている。計画者が管理者と介護職員3名以上で開催するサービス担当者会議で検討しプランを作成している。家族には面会時に意向を確認している。	現在は口頭で行われている各職員の気づきを記録に残し、プランに反映させることで、さらなる個別ケアの推進を期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を整備し気づきや情報は申し送りノートで共有し、必要に応じて介護計画の見直し等も行うようにしています		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟にご家族の希望に添えるように対応しております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサークルの参加やボランティアを迎えることも増え、暮らしを楽しめる支援を行っています		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療と24時間対応の協力病院と連携を取り合い速やかな受診が行えるよう支援しています。訪問歯科や精神科、皮膚科の受診も行っていきます	全員の主治医が内科の往診医となっている。その他、精神科、皮膚科、眼科もそれぞれ往診医院が対応してくれる。急な体調不良には電話での指示もあり、21時の往診もあるなど連携がとれている。訪問リハビリにより退院後に立ち上がりが可能となった方もいる。処方薬の変更は申し送りノートで共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回の訪問を受け、24時間対応してもらっています		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と連携をして情報交換を行っています また、早期に対応できるよう相談し、入退院時には介護サマリーなどの提供を行っています		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合について当施設の方針と内容について説明し、同意書を得ている。 併せてターミナルについてもご本人、ご家族から同意を得ています	契約時に重度化した場合の方針と内容を説明し同意を得ている。職員にターミナル研修を行っている。家族会で看取りと訪問看護に関して説明し、ターミナルまでの対応が可能であることを伝えられている。ホーム内での看取りの経験もある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルや30分研修を行い、迅速な対応ができるように備えている。また消防署の救命救急の講習にも参加しています		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備し防災の説明を受け、避難訓練の実施を定期的に行っています	建物は耐震構造となっており、利用者のヘルメットも用意済み。全職員が訓練を体験している。緊急連絡訓練も行った。不審者対策として、玄関の暗証番号は定期的に変更している。備蓄は三日分を用意している。	防災対策マニュアルの作成と、職員全員で行う避難訓練の反省・課題の抽出と今検討されている訓練の回数増加により避難技術を習熟されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重してスタッフが対応しています。	接遇研修を実施している。利用者の勘違いなどに対しても傷つかないように返答している。排泄では男性を中心にトイレのドアを開けっぱなしにしてしまう方々にもスタッフが閉めるようにしている。利用者の居室に入るときには入室の声かけを行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の望む物や行動に沿ったケアを心がけています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムを壊さず満足した1日が過ごせる様に支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装はなるべく本人に選んで頂き季節にあった服装を着て頂いています。また定期的に訪問美容も行っています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては好みや禁止食などを事前に聞き取り調理に反映して対応しています。	利用者はもやしのみひげとり、茶碗洗い、下膳などを行っている。行事ごとに御節やお寿司、お弁当などにしたり、月に2度パン屋の訪問販売では自分のおやつのパンを選んだりと食を楽しむ機会がある。毎食のメニューも彩など見た目をきれいに提供している。本来のメニューにもトッピングを加えるなどのひと手間をかけ、見た目と味わいを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量、食事量を記録し排泄量もチェックしています。またミキサー、トロミなどその方にあった方法で提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアの声かけをしチェック表に記入しています。困難の方には職員が支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら排泄コントロールと排泄の支援を実施し、体調の管理に留意しています。	支援によりパットを使用しなくなった改善ケースがある。座位がとれればトイレでの排泄を支援している。日中は全員トイレでの排泄を支援している。トイレも居室も臭いが残らないよう消臭スプレーを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握し、水分、食事内容を工夫して便秘予防に努めています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しんで入浴出来る様に温度や環境に気を配っています。	1階の浴槽は一般の浴槽サイズだが、浴槽をまたげない方も車いすの方も使用できるものとなっており、ADLが低下しても入浴できる環境が整っている。9時からの朝風呂を楽しむ方や、夏には夕方シャワーする方もいるが、概ね午前中の入浴が多い。柚子湯、しょうぶ湯、入浴剤などを楽しんでいる。脱衣所も床暖房となっており暖かい。週に2～3回の入浴で、私物の石鹸を使用する方もいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせてご本人のペースで休息して頂き安眠出来る様に照明管理に努めています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服管理簿に最新の情報を載せ、職員全員が閲覧し情報の共有し服薬事故の防止に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的にレクを実施し季節、ご本人の趣味に合わせたレクを提案し楽しんで頂いています。また自立支援に繋がる作業をしていたいです。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へは日常的に散歩や買い物等で外出出来る様にしている。またご家族と一緒に外出出来る様にしています。	外気浴、草取り、月に2回の買物など外に出ることは増えている。植木の剪定をしてくれる入居者もいる。利用者毎に「外気浴・外出チェック表」を用意した。4月には入居者全員がお花見に出かけることができた。家族との外出や外泊を楽しむ方もいる。	個別の散歩の増加を検討されているので、外気浴・外出チェック表の活用により散歩などの外出が頻回に行われることを期待します。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は紛失防止として基本的に事務所にてお預かりしています。日常の嗜好品やお菓子の購入や医療費等のために使用しています		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から利用者様に電話が来ることもあり、原則通信は自由に行っています。携帯電話を持っている方もいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節、気候にあった温度管理、雰囲気づくり、過ごしやすい生活空間を提供出来る様常に工夫しています。	エントランスには季節の花がきれいに植えてあり、夏にはテラスのプランターで夏野菜を収穫できた。1階にはカラオケがあり、入居者が懐メロを楽しそうに歌っている。リビングには洗面コーナーが二つあり落ち着いて洗面できるよう配慮されている。また、布製の季節感のある作品が飾られている。温度湿度管理には気を配り、西日はカーテンで調節している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは椅子、ソファー等で寛いでいますし、ベランダで日光浴も出来たりします。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の部屋として自由に家具、調度品を持ち込んで居心地の良い環境作りを心掛けています。また各部屋に緊急コールボタンを設置しています。	ドアには表札のように名前が掲示されている。エアコン、防煙カーテン、ベッド、クローゼット、インターフォンコールを完備。テレビ、椅子、チェスト、電子ピアノ、仏壇、タンス、写真、絵などを持参されている。額に入った写真を飾る部屋は家族が入れ替えを行っている。生け花が飾られている部屋もある。利用者作成のパッチワークをベッドカバーにしたものを使用している方もいる。夜間の乾燥には濡れタオルで対応している。ADLに合わせ、荷物を減らしたり、ベッドや家具の配置を変えたり工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーにしていますので車椅子の生活の方でも自由に移動生活できます。浴室には機械浴槽を設置していますので重度の方の入浴可能となっています。		